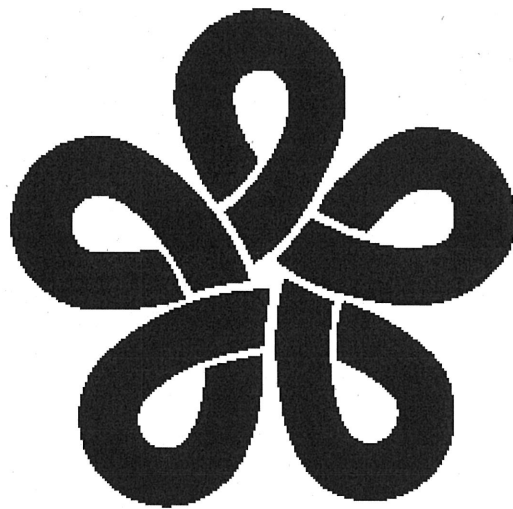


# 事業概要

平成 23 年度



福岡県食肉衛生検査所

〒818-0072

福岡県筑紫野市二日市中央4丁目5番34号

e-mail [shokunikukensa@pref.fukuoka.lg.jp](mailto:shokunikukensa@pref.fukuoka.lg.jp)

TEL 092(923)6621

FAX 092(923)6648

## はじめに

食べることは呼吸と同様に人間が生命を維持し、活動し、生長するために必要不可欠なものであり、空気や水を含めた食物の安全性確保は私たち人間にとって最も基本的かつ重要な事項です。

本県では、「福岡県食の安全対策基本方針」において、県民の健康保護を最優先に、生産から消費に至る一貫した安全対策を総合的に推進していくための基本的な考え方や施策の方向性を示しています。

当所においてもこの基本方針を踏まえ、食肉・食鳥肉の安全確保に向けて取り組んでおり、と畜場や食鳥処理場において疾病排除のための一頭・一羽ごとの検査を確実に実施するとともに、安全な食肉等のもととなる健康な家畜の生産に資するため、検査成績の生産農家へのフィードバックに努めています。

また、と畜処理・食鳥処理過程における微生物対策によって、より安全な食肉等が消費者に提供されるよう、と畜場及び食鳥処理場でのモニタリング検査を実施し、清潔保持・処理作業の衛生確保に向けた事業者を指導しています。

更に、口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザの発生時には迅速な対応が必要となることから、各処理施設における管理体制の強化が重要になってきております。施設ごとに構造設備、立地条件が異なるなか、このような体制強化についても指導を重ねているところです。

BSEについては、消費者の皆様安心して消費して頂くため全頭スクリーニング検査を続けておりますが、対策開始から10年経過し、特定危険部位除去等の諸対策が功を奏しており、大きく低減した国内外のリスク状況を踏まえた内閣府食品安全委員会のBSE対策再評価の動向を注視しているところです。

一方、様々な食材の生食をよしとする風潮が一部にあり、昨年は牛肉の生食に起因する腸管出血性大腸菌食中毒によって5名の犠牲者を出すという痛ましい事件が発生しました。

安全性確保のため生食用牛肉の規格基準設定や生食用牛レバーの販売・提供禁止の措置が取られましたが、食肉・食鳥肉の安全性を確保していくためには、消費者の皆様は食肉等について正しく理解していただき、食中毒事故防止の観点から適切な調理等のもと美味しく召し上がって頂くことが重要と考えております。

今後とも、当所としましては食肉・食鳥肉の安全確保のため検査・指導体制の強化を図るとともに、各地の食肉衛生検査所はもとより、食品衛生および家畜衛生関係の皆様との連携を密にし、検査員一同資質の向上と技術の研鑽に努めて参りますので、福岡県の食肉衛生行政推進につきまして引き続き、ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

ここに、平成23年度の事業概要を取りまとめましたので、ご高覧いただければ幸いです。

平成24年8月

福岡県食肉衛生検査所長

西村 耕一

# 目次

第1章 総説	1
1 福岡県のと畜、食鳥検査の概要	2
2 施設概要及び位置案内図	4
3 組織・機構及び職員構成	5
4 所管すると畜場及び食鳥処理場の位置図	6
5 所管と畜場の概要	7
6 所管大規模食鳥処理場の概要	8
7 所管認定小規模食鳥処理場の概要	9
8 平成23年度収入及び支出の状況	9
9 と畜・食鳥検査手数料及び証明手数料	
第2章 事業概要	
1 と畜検査	10
(1) と畜場別・畜種別と畜検査頭数	11
(2) と畜場別・畜種別月間検査頭数	12
(3) と畜場内と殺頭数及び獣畜のと殺解体禁止又は廃棄したものの原因	13
(4) と畜場別・畜種別と殺解体禁止又は全部廃棄頭数	14
(5) 牛のと畜場別・器官別疾病数	16
(6) 馬のと畜場別・器官別疾病数	17
(7) 豚のと畜場別・器官別疾病数	19
(8) とくのと畜場別・器官別疾病数	19
(9) めん羊のと畜場別・器官別疾病数	20
(10) 病畜検査状況	21
(11) と畜種別・出荷地別搬入状況	22
(12) BSE検査	
2 食鳥検査	23
(1) 大規模食鳥処理場の食鳥検査羽数及び検査結果	26
(2) 認定小規模食鳥処理場の確認羽数及び確認結果	
3 精密検査	27
(1) 微生物検査	28
(2) 理化学検査	31
(3) 病理検査	33
(4) 業務管理基準(GLP)の対応、整備について	35
(5) 動物に起因する感染症の病因物質保有状況等調査事業	
4 衛生指導	36
(1) 細菌検査	39
(2) 衛生旬間	39
(3) と畜場、大規模食鳥処理場に併設する食肉処理施設等の監視指導	39
第3章 調査研究	40
1 学会及び誌上発表一覧	

# 第1章 総説

# 1 福岡県のと畜、食鳥

## (1) と畜検査の概要

福岡県が管轄する地域  
と畜場が4施設（1と畜場）  
している。

平成23年度の検査頭数  
めん羊14頭で、前年度比は  
では456頭、馬では134  
と畜場の検査頭数は第2章

本県管轄内で最も大きい  
牛豚ともに県内をはじめ  
は肉用種の比率が高い。

一方、熊本県に隣接する  
は、二つのと畜場を合わせ  
県南食肉センターの牛に

BSEスクリーニング  
食肉に対する消費者の  
密検査体制の充実に努め

## (2) 食鳥検査の概要

本県が管轄する地域に  
21施設あり、専任の食鳥

平成23年度の検査羽  
3,098,437羽であった。

認定小規模食鳥処理場  
食鳥処理の事業の規制及び  
維持管理について指導を  
時あるいは6時出勤の変

また、大規模食鳥処理  
も整備し、消費者へ安全

これからの課題として  
的を達成するため、有用  
産者、関係業界との連携

要

九州市、大牟田市、久留米市を除く。）にはと  
畜検査員22名でと畜検査を行っ

頭、とく178頭、馬969頭、豚65,700頭、め  
めん羊では37頭、めん羊では3頭増加し、牛  
なお、今年度の山羊のと畜はなかった。各と  
と畜場である。

九州協同食肉株式会社は全農の関連会社で、  
山口県等広い範囲から搬入され、牛において

と畜場（県南食肉センター、うきは市と畜場）  
検査頭数の約4割が馬で占められている。また、  
肉用種の比率が高い。

2名体制で実施している。

払拭するため、より信頼されると畜検査や精

食鳥処理場が2施設、認定小規模食鳥処理場が  
食鳥検査を行っている。

ラー703,478羽、成鶏2,39,4959羽、合計

各施設について少なくとも月1回巡回し、食  
確認規程に基づく基準適合の確認及び施設の  
、早朝から処理する施設もあるため、早朝4  
している。

食鳥インフルエンザを発見した場合の対応など  
るための検査体制の充実に努めている。

食鳥検査の意義と重要性を認識し、検査の目  
を積極的にフィードバックし、行政機関、生  
体制作りが必要である。

## 2 施設概要及び位置案内図

敷地面積 1,290.11㎡

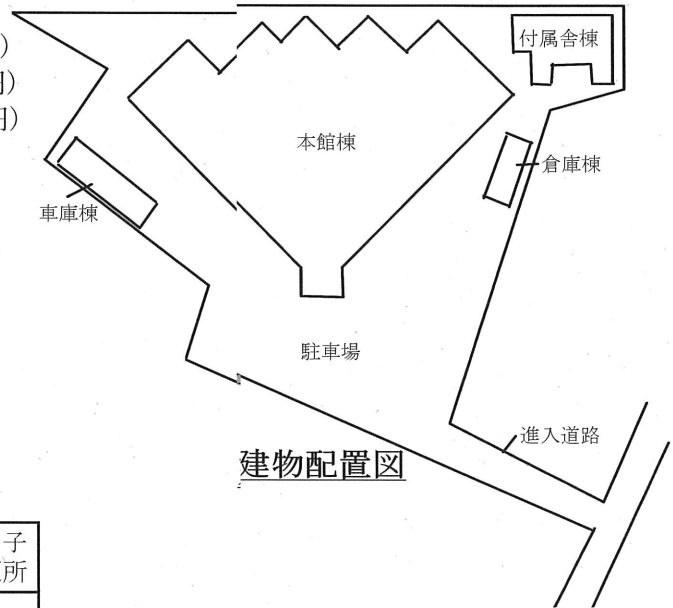
建 物	(建坪総面積合計 754,338㎡)		
①本館棟	鉄筋コンクリート	2階建	648,588㎡
②附属舎棟	鉄筋コンクリート	平屋造	64,000㎡
③車庫棟	鉄筋コンクリート	平屋造	26,560㎡
④倉庫棟	木造プレハブ	平屋造	15,190㎡

建設費総額 213,639千円 (国庫補助 17,065千円)  
 (起 債 92,000千円)  
 (一般県費 104,574千円)

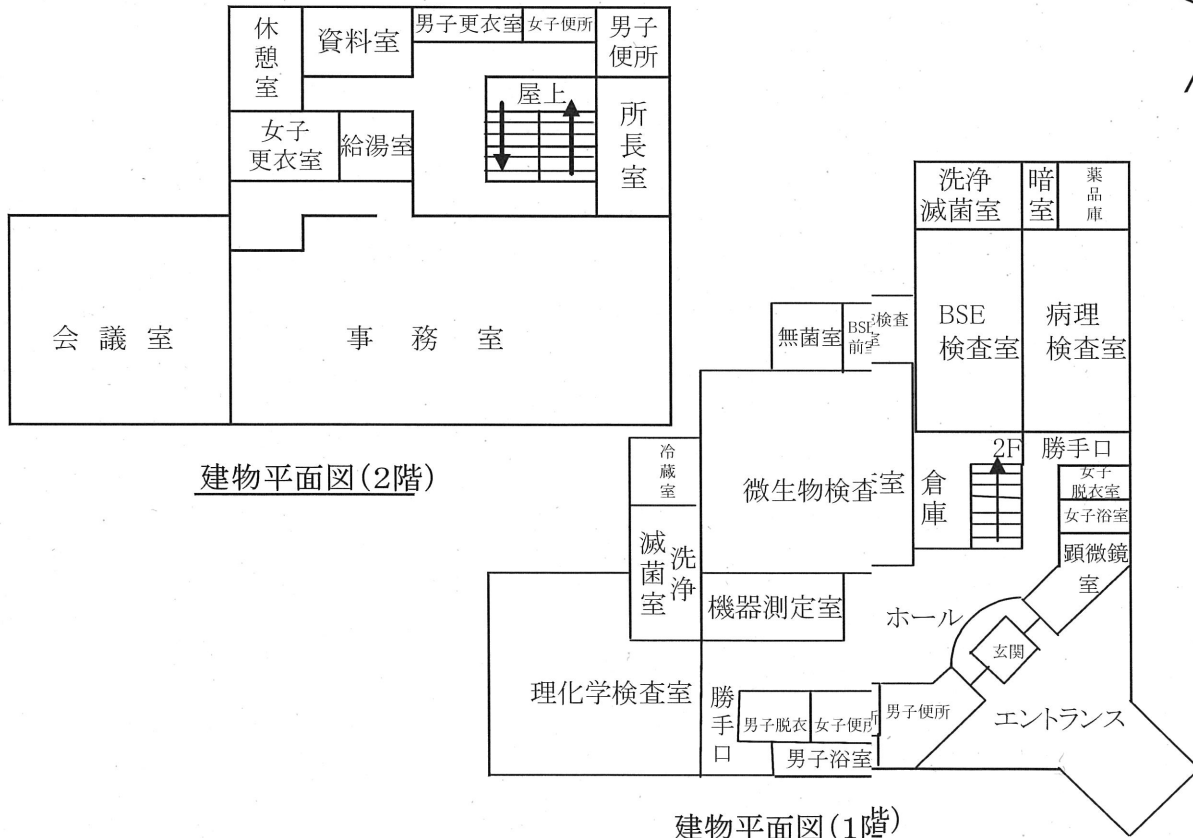
建設費内訳 設計委託費 9,770千円  
 工事費 169,079千円  
 備品費 30,834千円  
 その他諸経費 3,956千円

竣 工 昭和60年3月30日

増 築 平成4年3月31日

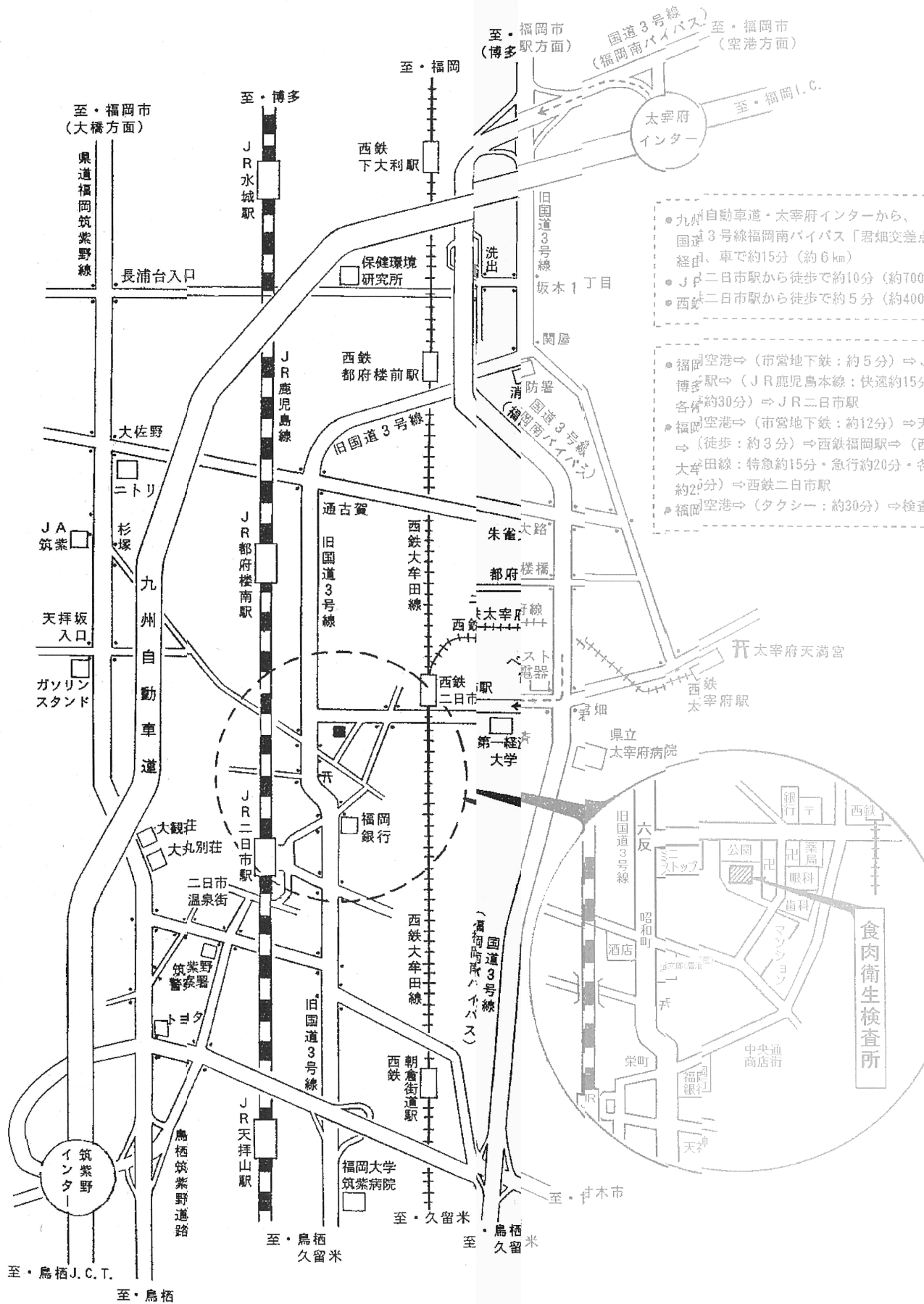


建物配置図



建物平面図(2階)

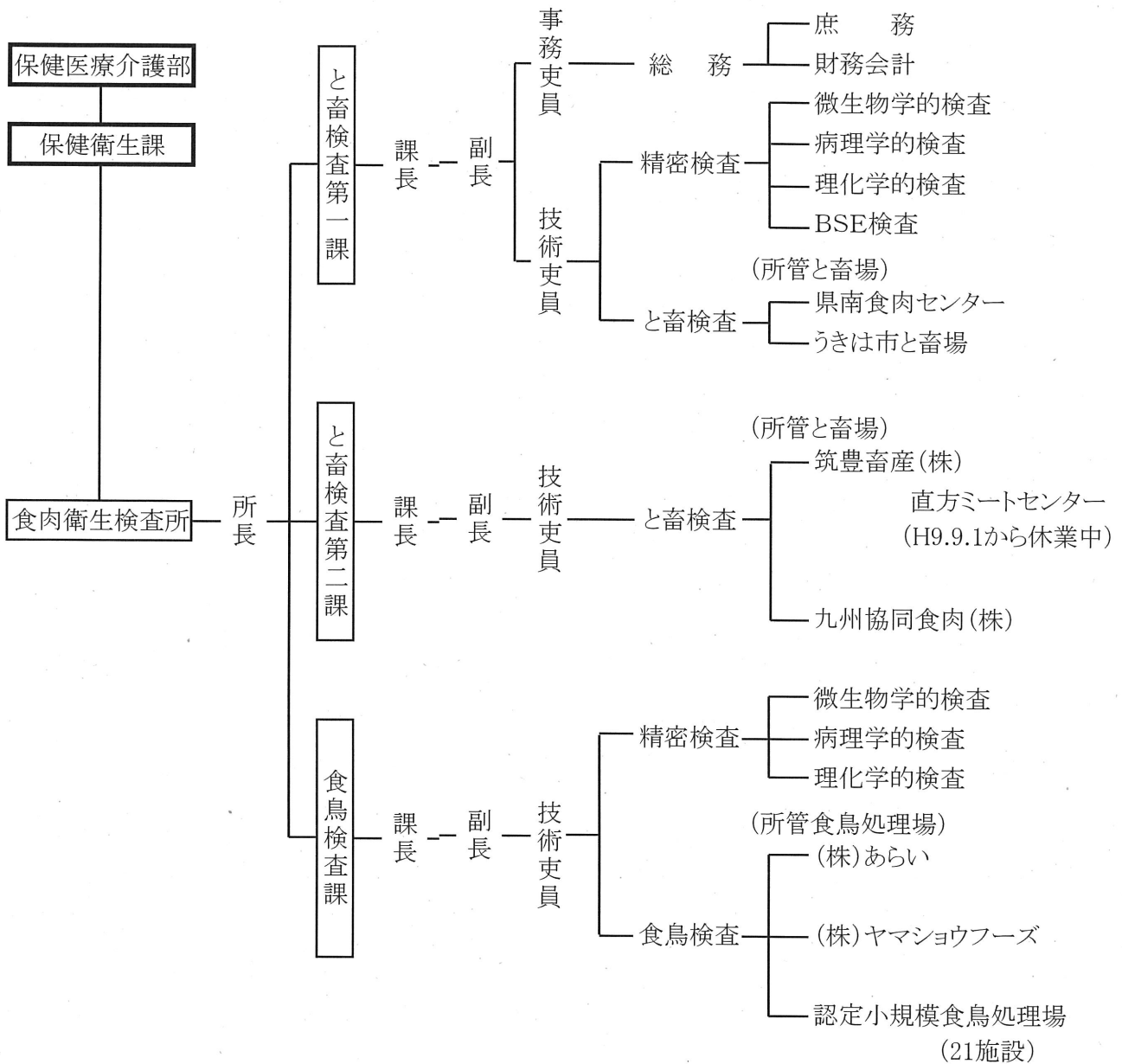
建物平面図(1階)



- 九州自動車道・太宰府インターから、国道3号線福岡南バイパス「君畑交差点」経由、車で約15分 (約6km)
- JR 二日市駅から徒歩で約10分 (約700m)
- 西鉄 二日市駅から徒歩で約5分 (約400m)
  
- 福岡空港⇒(市営地下鉄:約5分)⇒博多駅⇒(JR鹿儿岛本線:快速約15分、普通約30分)⇒JR 二日市駅
- 福岡空港⇒(市営地下鉄:約12分)⇒天神駅⇒(徒歩:約3分)⇒西鉄福岡駅⇒(西鉄大牟田線:特急約15分・急行約20分・普通約25分)⇒西鉄二日市駅
- 福岡空港⇒(タクシー:約30分)⇒検査所

### 3 組織・機構および職員構成

(1) 検査所の組織及び機構 (平成24年3月31日現在)



(2) 職員構成 (平成24年3月31日現在)

	総員	事務吏員		技術吏員 (獣医師)						
		企画主査	事務主査	所長	課長	参事補佐	副長	技術主査	主任技師	技師
所長	1			1						
と畜検査第一課	14	1	1		1	1	(1)* <sup>1</sup>	4	5	1
と畜検査第二課	8				1	2	(1)* <sup>1</sup>	1	3	1
食鳥検査課	6				1		1	4		
計	29	1	1	1	3	3	1	9	8	2

\*1 参事補佐は副長を兼務



#### 4 所管すると畜場及び食鳥処理場の位置図



②、③、⑥、⑩：と畜場

A、B：大規模食鳥処理場（年間処理羽数が30万羽を超える施設）

1～21：認定小規模食鳥処理場（年間処理羽数が30万羽以下の施設）

\* 福岡市、北九州市、大牟田市及び久留米市を除く。

5 所管と畜場の概要 (平成24年3月31日現在)

と畜場 番号	と畜場名	設置者	所在地	許可年月日	面積(m <sup>2</sup> )		処理能力(頭/1日)		
					敷地	建物(延)	大動物	小動物	小動物換算
2	筑豊畜産株式会社 直方ミートセンター	筑豊畜産 株式会社	〒822-0034 直方市山部922-5	S45.10.14 (H9.9.1 から休業)	9,370	1,212	55	-	220
3	県南食肉センター	県南食肉セン ター協同組合	〒838-0132 小郡市光行1152	H4.10.16	4,975	1,537	40	50	210
6	九州協同食肉株式会社	九州協同食肉 株式会社	〒818-0105 太宰府市都府楼南5-15-1	S58.9.24	21,976	4,079	100	300	700
10	うきは市と畜場	うきは市	〒839-1305 うきは市吉井町福永72番地1	S35.5.9	1,934	581	5	-	20

6 所管大規模食鳥処理場の概要（平成24年3月31日現在）

番号	食鳥処理場名	所在地	許可年月日	処理食鳥種	平均処理羽数(羽/1日)	処理の形態	食鳥処理衛生管理設置数
A	株式会社 ヤマシヨウフーズ	〒834-0016 八女市豊福241-2	H6.9.26	成鶏 (採卵鶏)	9,000	外剥ぎ	8名
B	株式会社 あらい	〒811-3134 古賀市青柳3272-17	H6.11.10	ブロイラー 成鶏 (種鶏♀・♂) (採卵鶏)	2,800	自動中抜き	9名

7 所管認定小規模食鳥処理場の概要 (平成24年3月31日現在)

番号	食鳥処理施設		処理食鳥種		年間確認羽数(羽/年)	10万 ～ 1万		許可 年月日	備考
	所在地	施設名	ブ ロ イ ラー	成 鶏		10万 ～ 1万	1万 以下		
1	糸島市	山本かしわ店		○			○	H4.3.30	
2	宮若市	(有)チキンショップ城戸	/	/	/	/	/	H4.3.30	休止中
3	糸島市	末崎食鳥	○				○	H14.11.12	
4	宗像市	石松養鶏場		○			○	H4.3.30	
5	宮若市	株式会社 地黄卵		○			○	H14.10.11	
6	朝倉市	因間食鳥		○			○	H4.3.30	
7	うきは市	(有)石井食鳥		○			○	H15.8.6	
8	柳川市	佐藤食鳥	/	/	/	/	/	H4.3.30	休止中
9	筑後市	若菜食鳥	/	/	/	/	/	H4.3.30	休止中
10	飯塚市	石丸食鳥		○			○	H4.3.30	
11	飯塚市	永島ブロイラー	○	○			○	H4.3.30	
12	宮若市	清水食鶏	○	○			○	H4.3.30	
13	飯塚市	北九福鳥(株)飯塚営業所		○			○	H4.3.30	*
14	田川郡添田町	押川養鶏場	/	/	/	/	/	H4.3.30	休止中
15	宗像市	小田かしわ店工場	○				○	H4.8.10	*
16	春日市	とり武		○			○	H6.7.1	
17	宗像市	広橋養鶏場		○			○	H10.5.27	
18	古賀市	青柳養鶏場		○			○	H13.9.20	
19	嘉麻市	筑前地鶏	/	/	/	/	/	H16.4.14	休止中
20	福津市	株式会社 総食	○	○	○			H4.3.30	確認規定の認定はH18.6.7
21	八女市	ミミタビー	○				○	H23.6.1	

\*印は食鳥とたいの処理施設

## 8 平成23年度収入及び支出の状況

区分	科目	平成23年度決算額
収入	と畜検査手数料	32,702,700
	食鳥検査手数料	12,393,748
	証明手数料	434,000
	食鳥処理事業許可手数料	24,500
	計	45,554,948
支出	普通旅費	3,042,500
	光熱水費	2,101,593
	その他需用費	17,982,263
	通信運搬費	215,083
	その他役務費	141,081
	委託費	1,352,400
	使用料及び賃借料	345,770
	備品購入費	0
	計	25,180,690

(単位:円)

## 9 と畜・食鳥検査手数料及び証明手数料

種別	牛	馬	とく	こま	豚	めん羊	山羊	食鳥
検査料	600				300			4
証明料				400				

(単位:獣畜は円/頭 食鳥は円/羽)

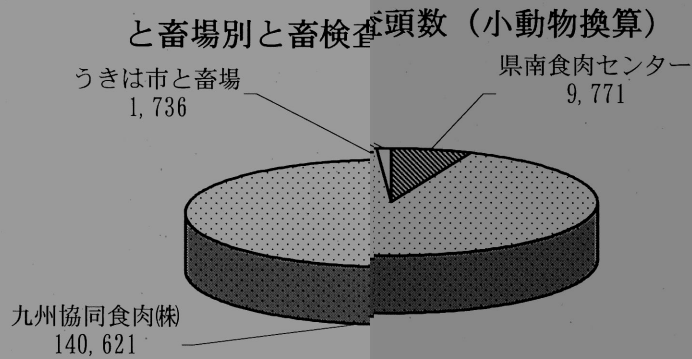
## 第 2 章 事業概要

# 1 と畜検査

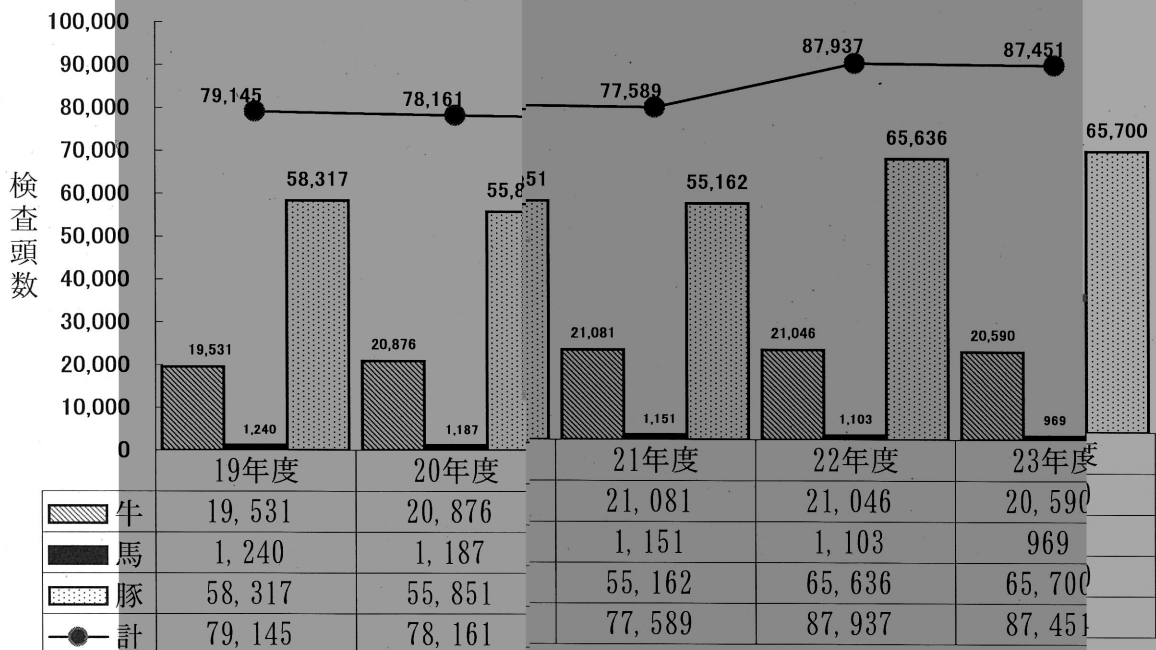
## (1) と畜場別・畜種別と畜検査頭数

	牛	とく	馬	豚	めん・山羊	小動物換算 (うち病畜数)	換算合計 (畜数)
県南食肉センター	1,809 (504)	177	551	140	14		9,771 (2,016)
九州協同食肉(株)	18,765 (73)	1 (1)		65,560			140,621 (293)
うきは市と畜場	16		418				1,736
合計実頭数 (うち病畜数)	20,590 (577)	178 (1)	969	65,700	14	87,451 (578)	152,128 (2,309)

※小動物換算：大動物＝小動物×4



## 過去5年間のとちく検査頭数の推移



(2) と畜場別・畜種別月間検査頭数

【県南食肉センター】

畜種	計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
牛	1,809	149	143	143	147	165	154	152	165
とく	177	8	16	6	10	23	17	8	22
馬	551	50	32	31	40	74	38	36	36
豚	140	12	14	10	11	11	10	10	15
めん羊	14	0	2	0	0	0	2	0	5

【九州協同食肉(株)】

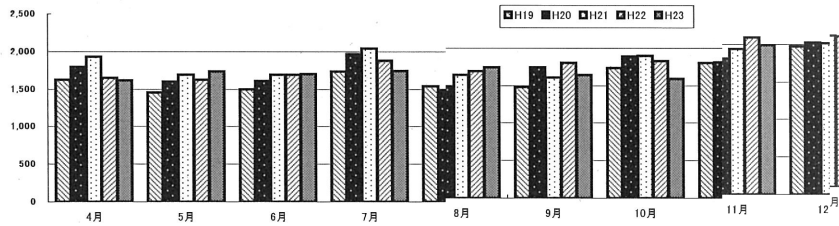
畜種	計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
牛	18,765	1,467	1,588	1,557	1,592	1,579	1,489	1,439	1,828
とく	1	0	0	0	0	0	0	0	1
豚	65,560	5,566	5,213	5,426	4,810	5,358	4,892	5,538	6,282

【うきは市と畜場】

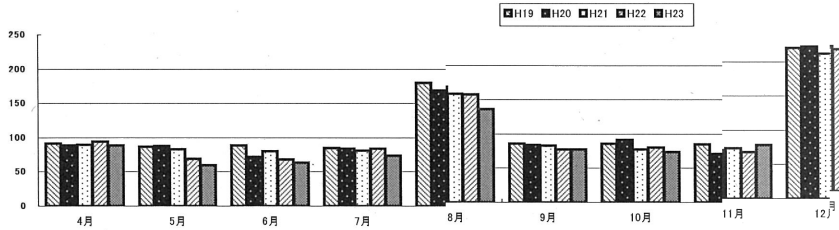
畜種	計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
牛	16	2	1	2	1	2	2	1	0
馬	418	35	23	26	27	54	30	28	31

過去5年間の月別とちく検査頭数の推移

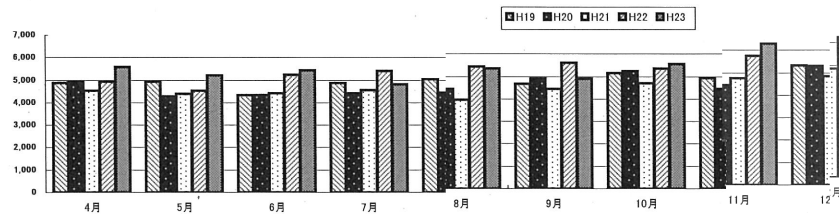
(牛)



(馬)



(豚)





(3) と畜場内と殺頭数及び獣畜のと殺解体禁止又は廃棄したものの原因

獣種	と畜場内と殺頭数	処分実頭数	疾病別頭数																					
			細菌病		ウイルス・リケッチア病		原虫病	寄生虫病		その他の疾病								計						
			炭疽	豚丹毒	サルモネラ病	結核病	ブルセラ病	破傷風	放線菌病	その他	豚コレラ	その他	膿毒症	敗血症	尿毒症	黄疸	水腫	腫瘍	中毒諸症	炎症又は炎症産物による汚染	変性又は萎縮	その他		
牛	20,590	125												15	19	5	8	34	44				125	0
と		16,923											127	4	212	2	13,405	8,024	76				21,851	0
と																								
と																								
と																								
と																								
と																								
と																								
と																								
と																								
と																								
と																								
と																								
と																								
と																								

と畜場内と殺頭数	処分実頭数	と畜場内と殺頭数	処分実頭数	と畜場内と殺頭数	処分実頭数	と畜場内と殺頭数	処分実頭数	と畜場内と殺頭数	処分実頭数
100,700	197	35,573	1	19	108	1	1	127	1

(4) と畜場別・畜種別と殺解体禁止又は全部廃棄頭数

種 別 と 畜 場 名	獸 種	と殺解体禁止				全 部 廃 棄								
		膿 毒 症	敗 血 症	豚 丹 毒	合 計	膿 毒 症	敗 血 症	尿 毒 症	黄 疸	水 腫	腫 瘍	豚 丹 毒	白 血 病	合 計
県南食肉センター	牛				0	13	17	1	4	34	9		28	106
	とく				0									0
	馬				0						1			1
	豚				0									0
九州協同食肉(株)	牛				0	2	2	4	4				7	19
	豚	48	33		81	49	108	1	4			11		173
うきは市と畜場	馬				0									0
合 計	牛	0	0	0	0	15	19	5	8	34	9	0	35	125
	とく	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	馬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	豚	48	33	0	81	49	108	1	4	0	0	11	0	173

(5) 牛のと畜場別・器官別疾病数

と畜場名		県南	九食	うきは	合計
と畜検査頭数		1,800	18,765	16	20,590
処分実頭数		1,531	15,387	10	16,928

器官別	疾病名	疾病数			
		県南	九食	うきは	合計
循環器系	心筋炎	3	13		16
	心外膜炎	174	397		571
	心内膜炎	0			6
	心臓リポフスチン沈着	10	1		20
	心筋出血	3	20		23
	小計	209	431	0	636
血液・造血器系	脾膿瘍	1			1
	脾包膜腫				0
	脾膿瘍	1	24		25
	咽頭後リンパ節膿瘍		12		12
	顎下リンパ節膿瘍		4		4
	耳下リンパ節膿瘍		2		2
	内腸骨リンパ節膿瘍		2		2
	肺門リンパ節膿瘍		17		17
	縦隔リンパ節膿瘍		4		4
	肝門リンパ節膿瘍		10		10
	気管支リンパ節結節				0
	気管・気管支リンパ節結節		2		2
	縦隔リンパ節結節		2		2
	顎下リンパ節結節				0
	肺門リンパ節結節	2	79	0	81
小計	121	1,017	5	1,143	
呼吸器系	肺炎(その他)	20	384		410
	肺膿瘍	70	4,784		4,863
	胸膜膿瘍	4	307		311
	横隔膜膿瘍				0
	横隔膜膿瘍		1		1
	縦隔膜膿瘍		1		1
	縦隔膜膿瘍	230	6,494	5	6,729
小計	50	74		124	
泌尿・生殖器系	腎炎(その他)	2	42		44
	腎膿瘍	1	2		3
	腎出血	2	19		21
	膀胱炎	1	27		28
	腎結石	2	16		18
	腎臓リポフスチン沈着				0
	腎腫瘍	1	704		705
	腎周囲脂肪石		14		14
	膀胱結石				0
	膀胱膿瘍	3	38		41
	のう胞炎	132			132
	乳房膿瘍	2			2
	子宮蓄膿症		1		1
	子宮内膿瘍	1			1
子宮脱・脱腫				0	
卵巣嚢腫	197	937	0	1,134	
小計					

疾病名		と畜場名	県南	九食	うきは	合計	
消化器系	舌	膿瘍		1		1	
	舌	潰瘍		3		3	
	舌	炎		2		2	
	胃	炎(その他)	649	1,022		1,671	
	胃	潰瘍				0	
	胃	膿瘍	12	68		80	
	小腸	腸炎	378	326		704	
	大腸	腸炎	771	4,980	1	5,752	
	腹腸	膜炎	49	71		120	
	腸	膿瘍		7		7	
	腸	膜脂肪壊死	42	1,635		1,677	
	腸	結節虫症		4		4	
	腸	膜リンパ節膿瘍		1		1	
	腸	膜リンパ節結節				0	
	腸	間膜膿瘍	2	34		36	
	肝	蛭症	9	94	1	104	
	肝	炎(その他)	730	2,003		2,733	
	胆	管炎	37	366		403	
	肝	膿瘍	62	880		942	
	肝	硬変	3	1		4	
	肝	包膜炎	63	541		604	
	肝	蛭症	1	19		20	
	脾	膿瘍				0	
	肝	出血	83	5,388	2	5,473	
	肝	静脈炎	18	106		124	
	肝	富脈斑	125	33		158	
	肝	うっ血		7		7	
	肝	リポフスチン沈着	11	1		12	
	肝臓	屑肝	14	926	1	941	
	鋸	小計	3,059	18,519	5	21,583	
	運動器系	筋	筋(間)水腫	10	196		206
		筋	炎(その他)	374	900		1,274
筋		膿瘍	35	29		64	
筋		肉の出血	2	1		3	
筋		下水腫		3		3	
皮膚		下膿瘍				0	
皮膚		膚炎		2		2	
皮膚		節炎	54	7		61	
関節		折	4	5		9	
骨		臼	1	1		2	
腕		脂肪症				0	
筋		リポフスチン沈着	1			1	
筋		小計	481	1,144	0	1,625	
放		線菌病	6	11		17	
	ピローマ		9		9		
	テノーシス		3		3		
	メ	瘍				0	
	腫	小計	6	23	0	29	
合計		4,180	27,627	10	31,817		

( )

循環器系

血液・造血器系

呼吸器系

消化器系

泌尿・生殖器系

運動器系

その他

(7) 豚のと畜場別・器官別疾病数

と畜場名	県南	九食	合計
と畜検査頭数	140	65,560	65,700
処分実頭数	36	35,537	35,573

疾病名				
循環器系	心筋炎		57	57
	心筋膿瘍		1	1
	心筋出血		9	9
	心外膜炎	8	3,496	3,504
	小計	8	3,563	3,571
血液・造血器系	脾膿瘍		2	2
	脾腫		5	5
	脾包膜炎	2	1,021	1,023
	そけいリンパ節膿瘍		52	52
	顎下リンパ節膿瘍		76	76
	腸管膜リンパ節膿瘍		18	18
	内腸骨リンパ節膿瘍		1	1
	そけいリンパ節結節		5	5
	顎下リンパ節結節	2	337	339
	腸間膜リンパ節結節	1	8,243	8,244
	小計	5	9,760	9,765
呼吸器系	肺炎(その他)	15	4,826	4,841
	SE P	1	1,189	1,190
	肺膿瘍		2,189	2,189
	胸膜肺炎		686	686
	胸膜炎	5	5,436	5,441
	肺虫症		2	2
	横隔膜膿瘍			0
小計	21	14,328	14,349	
消化器系	胃炎		251	251
	胃膿瘍		9	9
	胃潰瘍		1	1
	小腸炎	2	1,501	1,503
	大腸炎	3	2,641	2,644
	腸膿瘍		1	1
	腹膜炎	4	3,419	3,423
	腹腔内膿瘍			0
	腸気泡症		111	111
	直腸脱・脱肛			0
	ヘルニア		454	454
	肝炎(その他)		1,937	1,937
	肝膿瘍		8	8
	間質性肝炎	4	10,208	10,212
	肝硬変		14	14
	肝包膜炎	4	1,733	1,737
	肝出血		4	4
小計	17	22,292	22,309	

疾病名		と畜場名	県南	九食	合計
泌尿・生殖器系	腎炎(その他)		1	732	733
	腎膿瘍			7	7
	腎出血				0
	のう胞腎			314	314
	膀胱炎			4	4
	小計		1	1,057	1,058
運動器系	筋炎(その他)			313	313
	筋膿瘍		1	598	599
	筋肉の出血			2	2
	筋水腫			4	4
	耳介炎				0
	耳介腫瘍				0
	耳介変形				0
	皮下膿瘍		1	32	33
	骨折			7	7
	関節炎			16	16
	小計		2	972	974
合計			54	51,972	52,026

(8) とくのと畜場別・器官別疾病数

と畜場名		県南	九食	うきは	合計
と畜検査頭数		177	1		178
処分実頭数		15	1		16

疾病名		県南	九食	うきは	合計
循環器系	心外膜炎	2			2
	心内膜炎	2			2
	心筋炎				0
	小計	4	0	0	4
血液・造血器系	顎下リンパ節膿瘍				0
	耳下腺リンパ節膿瘍				0
	小計	0	0	0	0
呼吸器系	肺炎	1	1		2
	肺膿瘍				0
	胸膜炎				0
	小計	1	1	0	2
消化器系	肝膿瘍				0
	肝炎(その他)	7	1		8
	肝出血	1			1
	鋸屑肝炎				0
	腹膜炎	1			1
	胃潰瘍				0
	大腸炎	1	1		2
	小腸炎		1		1
	腸間膜脂肪壊死				0
	ヘルニア				0
小計	10	3	0	13	
運動器系	筋膿瘍	1			1
	筋炎	2	1		3
	骨折	1			1
	関節炎	2			2
	小計	6	1	0	7
合計		21	5	0	26

(9) めん羊のと畜場別・器官別疾病数

と畜場名		県南	九食	うきは	合計
と畜検査頭数		14			14
処分実頭数		3			3

疾病名		県南	九食	うきは	合計
	肺膿瘍	1			1
	メラノーマ	1			1
	肺炎	1			1
	肝砂粒症	2			2
合計		5	0	0	5

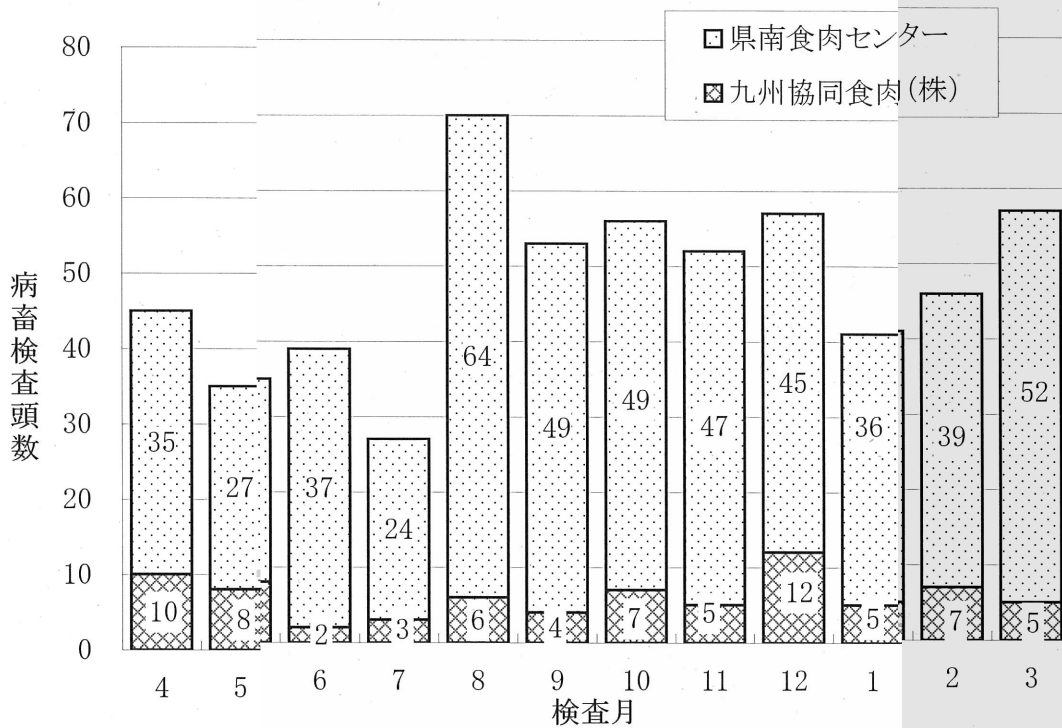


(10) 病畜検査状況

ア と畜場別・畜種別・月別病畜検査頭数

と畜場名	畜種	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
県南食肉センター	牛	35	27	37	24	64	49	49	47	45	36	39	52	504
	とく													
	馬													
九州協同食肉(株)	牛	10	8	2	3	6	4	7	4	12	5	7	5	73
	とく								1					1
	馬													
月計	牛	45	35	39	27	70	53	56	51	57	41	46	57	577
	とく								1					1
	馬													

イ と畜場別病畜検査頭数



ウ 各と畜場における検査総数に占める病畜検査頭数割合

九州協同食肉(株) (牛・とく)

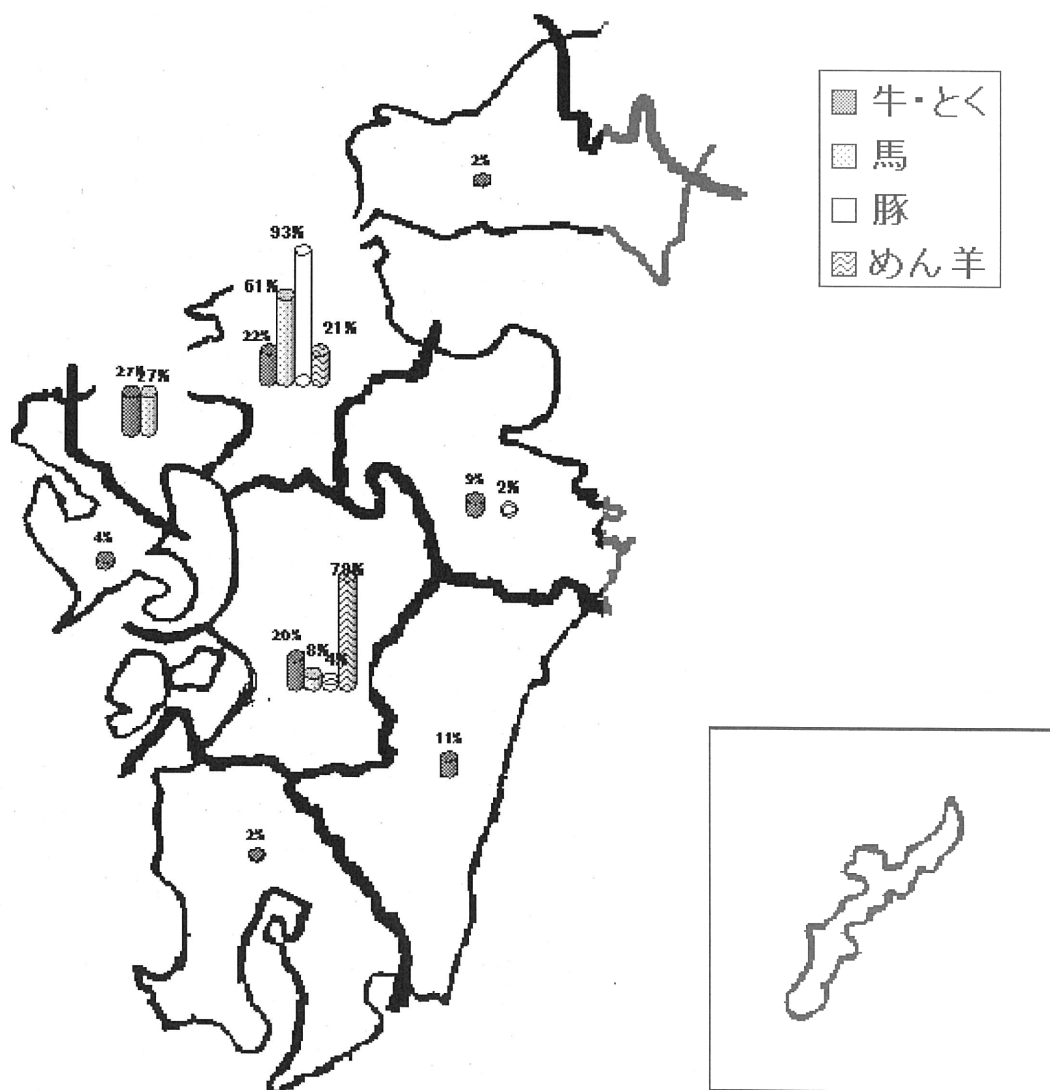
県南食肉センター (牛・とく)



(11) と畜種別・出荷地別搬入状況

	牛	とく	馬	豚	めん・山羊
福岡	4,537	10	595	61,202	3
佐賀	5,662	0	264	190	0
長崎	882	0	2	0	0
熊本	4,082	167	82	2,710	11
大分	1,960	1	0	1,568	0
宮崎	2,222	0	0	0	0
鹿児島	344	0	1	30	0
沖縄	569	0	0	0	0
山口	327	0	3	0	0
広島	1	0	0	0	0
岡山	1	0	0	0	0
高知	0	0	20	0	0
北海道	1	0	2	0	0
島根	2	0	0	0	0
合計	20,590	178	969	65,700	14

県別出荷割合



(12) BSE検査

平成13年9月21日に国内初のBSE（牛海綿状脳症）が確認されたことに伴い、平成13年10月18日以降、と畜を行う全ての牛についてBSE検査を実施している。なお、平成24年4月1日現在までのスクリーニング検査結果、平成16年12月15日に1頭陽性反応を呈したが、国立感染症研究所の確認検査の結果陰性であった。

BSE検査実施牛（と畜を含む）の内訳（頭数）

【県南食肉センター】

分類	乳用種		肉専用種		交雑種		計	
	県内	県外	県内	県外	県内	県外	県内	県外
ア 生後24ヶ月齢以上の牛のうち、生体検査時において運動障害、知覚障害、反射又は意識障害等の神経症状が疑われたもの及び全身症状を呈する牛								
イ 生後30ヶ月齢以上の牛	817	538	124	95	44	7	985	640
ウ その他(ア及びイ以外)の牛	67	181	71	21	5	16	143	218
計	884	719	195	116	49	23	1,128	858

\*TSE検査を県南食肉センターで処理されためん羊14頭について実施した。

【九州協同食肉(株)】

分類	乳用種		肉専用種		交雑種		計	
	県内	県外	県内	県外	県内	県外	県内	県外
ア 生後24ヶ月齢以上の牛のうち、生体検査時において運動障害、知覚障害、反射又は意識障害等の神経症状が疑われたもの及び全身症状を呈する牛								
イ 生後30ヶ月齢以上の牛	5	1	1,087	3,827	4	103	1,096	3,931
ウ その他(ア及びイ以外)の牛	811	1,007	1,331	9,721	36	833	2,178	11,561
計	816	1,008	2,418	13,548	40	936	3,274	15,492

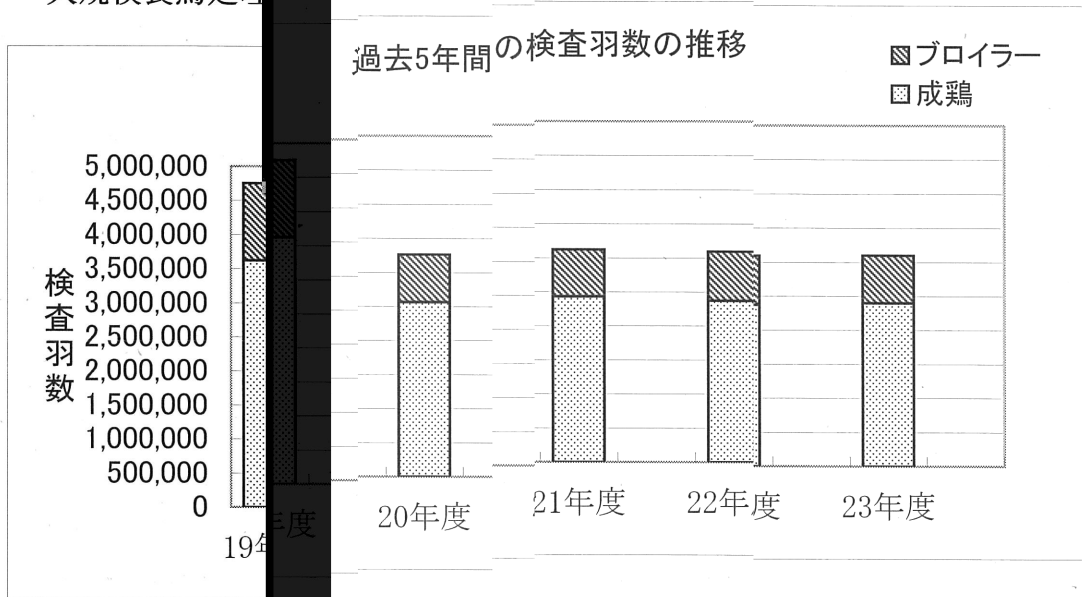
【うきは市と畜場】

分類	乳用種		肉専用種		交雑種		計	
	県内	県外	県内	県外	県内	県外	県内	県外
ア 生後24ヶ月齢以上の牛のうち、生体検査時において運動障害、知覚障害、反射又は意識障害等の神経症状が疑われたもの及び全身症状を呈する牛								
イ 生後30ヶ月齢以上の牛			2		4		6	
ウ その他(ア及びイ以外)の牛	1		1		8		10	
計	1		3		12		16	

## 2 食鳥検査

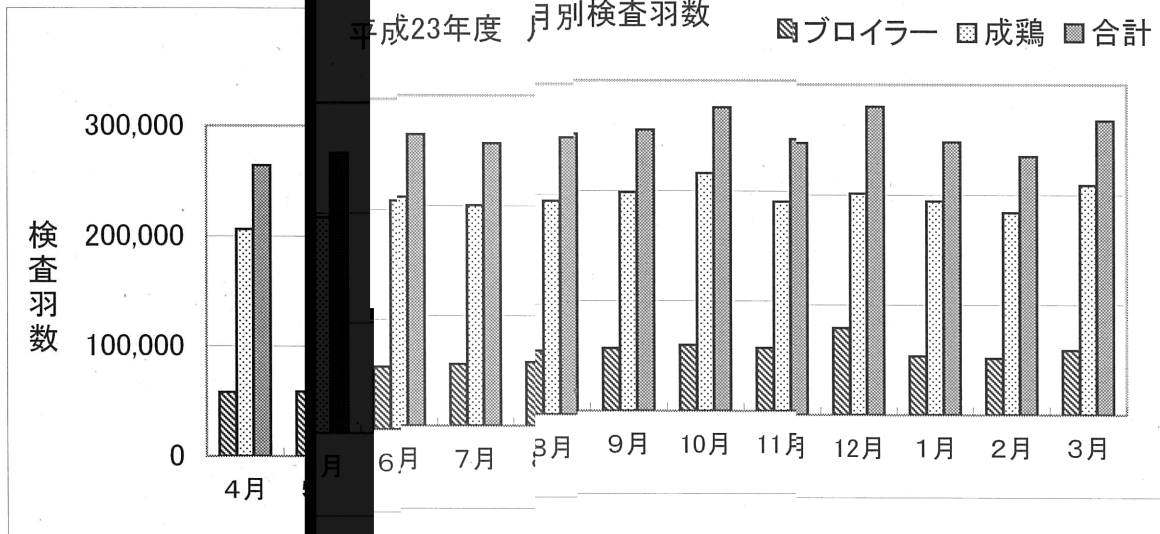
### (1) 大規模食鳥処理場の食鳥検査羽数及び検査結果

過去の5年間の検査羽数の推移



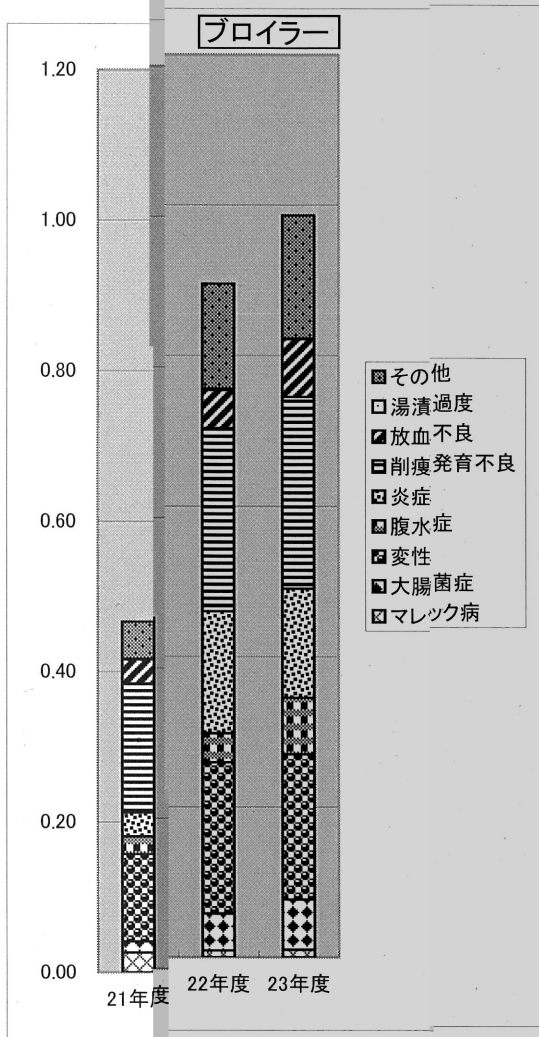
	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
ブロイラー	1,129,501	699,006	692,945	723,822	703,478
成鶏	3,613,964	3,261,010	3,121,004	3,092,426	3,098,437
合計	4,743,465	3,960,016	3,813,949	3,816,248	3,801,915
処理施設	2	2	2	2	2

平成23年度 月別検査羽数



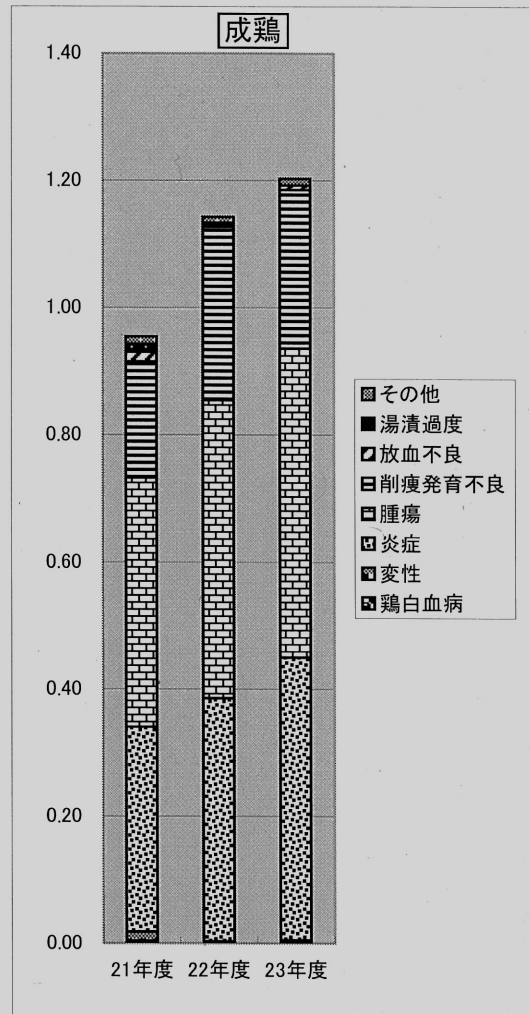
鶏種/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ブロイラー	58,102	58,603	57,011	57,787	57,786	59,778	57,114	78,847	53,498	51,236	58,618	703,478	703,478
成鶏	205,921	195,810	207,700	193,845	193,396	215,871	189,916	201,051	194,158	183,533	208,474	239,959	2,394,959
合計	264,023	254,413	264,711	251,632	251,182	275,649	247,030	279,898	247,656	234,769	267,092	3,098,437	3,098,437

過去3年間の廃棄の原因（禁止・全部廃棄）



禁止全廃率(%)

	21年度	22年度	23年度
マレック病	0.03	0.01	0.01
大腸菌症	0.01	0.05	0.07
変性	0.12	0.20	0.19
腹水症	0.02	0.04	0.08
炎症	0.03	0.16	0.15
削瘦發育不良	0.17	0.24	0.25
放血不良	0.03	0.05	0.08
湯漬過度	0.00	0.00	0.00
その他	0.05	0.14	0.16
禁止全廃率	0.47	0.90	0.99



禁止全廃率(%)

	21年度	22年度	23年度
鶏白血病	0.00	0.00	0.00
変性	0.01	0.00	0.00
炎症	0.32	0.38	0.45
腫瘍	0.39	0.47	0.49
削瘦發育不良	0.18	0.27	0.25
放血不良	0.01	0.00	0.01
湯漬過度	0.01	0.00	0.00
その他	0.01	0.01	0.01
禁止全廃率	0.95	1.14	1.20

と殺、内臓の摘出禁止又は廃棄したもの原因

処理食鳥種		ブロイラー			成鶏			計		
		703,478			2,394,959			3,098,437		
検査羽数										
処分項目		禁止	全部廃棄	一部廃棄	禁止	全部廃棄	一部廃棄	禁止	全部廃棄	一部廃棄
処理実羽数		3,614	3,235	2,737	5,564	23,238	334	9,178	26,473	3,071
クウ ラミル ジス ア病	鶏									
	伝染性気管支炎									
	伝染性咽頭気管炎									
	ニューカッスル病									
	鶏白血病					26			26	
	封入体肺炎									
	マレック病	7	63					7	63	
	その他		1						1	
細菌病	大腸菌症	75	396			9		75	405	
	伝染性コリバチ菌									
	サルモネラ菌									
	ブドウ球菌	95	101					95	101	
	その他									
そ の 他 の 疾 病	毒血症	4	28					4	28	
	膿毒症									
	敗血症	39	516			3		39	519	
	真菌症									
	原虫病(トキソプラズマ)									
	寄生虫病	1,119	241	3		91	1	1,119	332	4
	変異									
	尿酸塩沈着症	13	17	1		128		13	145	1
	水腫	305	223			7		305	230	
	腹水	10	68	226		91	43	10	159	269
	出血	26	995	2,406		10,659	278	26	11,654	2,684
	炎症									
	萎縮									
	腫瘍	9	12			11,621	11	9	11,633	11
	臓器の異常な増殖等	1	8	88		12	1	1	20	89
	異常体									
	黄疸	12	62			1		12	63	
	外傷	33	10	13				33	10	13
	中毒諸症									
	削瘦及び発育不良	1,347	445		5,491	489		6,838	934	
放血不良	511	27		73	96		584	123		
湯漬過度	6	1			5		6	6		
その他	2	21					2	21		
計		3,614	3,235	2,737	5,564	23,238	334	9,178	26,473	3,071

(2) 認定小規模食鳥処理場の確認羽数及び確認結果

種類 (開場日数)	確認羽数	食鳥の異常の有無確認結果						廃棄羽数の 合計	
		生体の 状況	体表の状況		体壁の 内側面 の状況	内臓の状況		全部 廃棄	一部 廃棄
			禁止 又は 全部 廃棄	全部 廃棄		一部 廃棄	全部 廃棄		
ブロイラー (1, 323)	153, 513	1	1, 513	4, 419	188	2, 827	27	1, 702	7, 273
成鶏 (2, 617)	303, 799	316	1, 144	1, 920	897	15, 055	539	2, 357	17, 514
あひる 0	0								
七面鳥 0	0								
合計	457, 312	317	2, 657	6, 339	1, 085	17, 882	566	4, 059	24, 787

施設数：21施設  
(うち5施設は休止中)

認定小規模食鳥処理場に対しては、毎月一回以上食鳥検査員2名で各施設への立ち入り調査を実施し、確認規程に基づく確認作業の実施状況、構造設備及び衛生管理基準の遵守状況について指導している。

### 3 精密検査

#### (1) 微生物検査

食肉等の検査に対応する精密検査【表1】

今年度、食肉検査の判定に関わる微生物学的検査を113頭（牛5頭、豚108頭）実施し、うち全部廃棄処分は35頭（牛1頭、豚34頭）であった。

表1 病因決定のための検査

検査項目	畜種	検査頭数	検体数	全部廃棄頭数	備考
敗血症	牛	2	12	1	
	豚	9	54	7	疣状心内膜炎型豚丹毒 4頭
結核	牛	2	2	0	
炭疽	牛	1	1	0	
豚丹毒	豚	58	116	7	関節炎型豚丹毒 6頭 蕁麻疹型豚丹毒 1頭
豚赤痢	豚	41	41	20	
計		113	226	35	



(2) 理化学検査

ア 理化学検査件数

平成23年度に理化学検査を実施した獣畜は714頭、検体数は1, 体であった【表2】。

イ 食肉等の検査に対応する精密検査

(ア) 尿毒症

「尿毒症」が疑われた牛8頭及び豚1頭について、簡易検査及び精密検査し、血中の尿素窒素濃度及びクレアチニン濃度を測定した結果、牛1頭を全部廃棄とした【表3】。

(イ) 黄疸

「高度の黄疸」が疑われた牛21頭及び豚5頭について、血中の総ビリルビン濃度を測定した結果、牛8頭及び豚4頭を全部廃棄とした【表4】。

ウ 食肉中の残留有害物質検査

福岡県監視指導計画に基づき、通常搬入畜及び家きんを対象とした残留有害物質モニタリング検査を実施した。また、抗菌性物質の残留が疑われる非常搬入畜の一部についても、同様に実施した(簡易法、一斉分析法)。結果、陽性を示した牛1頭については、分別推定法による薬剤系統の推定は出来なかったものの、薬剤系統が特定できなかった。なお、当該、と体については自主廃棄した。【表5、6】。

表2 理化学検査件数

検査項目		検査頭数	検体数	検査細目
尿毒症		9	9	アゾステイック 血清中尿素窒素 血清中クレアチニン
黄疸		26	26	濾紙呈色 血清中総ビリルビン
残留有害物質	簡易法	612	1200	抗生物質(ペニシリン系、アミノ糖系、マクロライド系)
	分別推定法	1	2	抗生物質(ペニシリン系、アミノ糖系、マクロライド系)
	HPLC	66	66	合成抗菌剤(12成分)
合計		714	1303	

\* 12成分：オキソリン酸、チンフェニコール、ジフラザン、フラザリドン、オルトメプロリム、トリメプロリム及びサルファ剤(スルファメザゾン、スルファジミジン、スルファモキシドン、スルファジメキシドン)

表3 尿毒症による全部廃棄畜

年月日	獣種	アツステック	BUN (mg/dl)	クレアチン (mg/dl)	筋肉の尿臭	所見
23. 5. 27	牛(肉)	60	155	16.5	あり	腹膜炎、肝炎、膀胱結石、尿道結石
23. 6. 6	牛(肉)	60	148	29.4	あり	腎膿瘍、腹膜炎、膀胱炎
23.10. 6	牛(肉)	60	175	17.6	あり	肝包膜炎、腹膜炎、腎炎、膀胱粘膜炎の肥厚、膀胱結石、腹腔内に血尿貯留
24. 3. 15	豚	N T	41	4.9	あり	肝炎、肺炎、腎炎、腹腔内に尿貯留
24. 3. 26	牛(肉)	60	97	15.1	あり	肝出血(尿臭あり)、水腎症、膀胱炎、膀胱破裂
24. 3. 28	牛(乳)	N T	26	2.0	あり	肝炎、腎炎、腎結石

表4 黄疸による全部廃棄畜

年月日	獣種	濾紙呈色試験 (mg/dl)	血中総ビリルビン (mg/dl)	所見
23. 4. 21	豚		4.3	全身の黄変、肝硬変
23. 7. 8	牛(肉)		6.4	全身の黄変、胆のう腫大
23. 7. 13	豚		3.3	全身の黄変、肝炎
23. 7. 28	牛(乳)		3.4	全身の黄変、心リポフスチン沈着症
23. 8. 16	牛(肉)		2.9	全身の黄変、肝炎
23. 9. 13	豚		3.6	全身の黄変、肝硬変、腹膜炎
23.10. 6	牛(肉)		2.6	全身の黄変、出血性心筋炎、腹膜炎、肝炎
23.12. 28	牛(乳)		4.9	全身の黄変、筋炎、肝炎
24. 1. 5	牛(乳)		2.8	全身の黄変、肝炎
24. 1. 6	牛(肉)		5.0	全身の黄変、肝炎
24. 3. 2	豚		3.4	全身の黄変、肝炎
24. 3. 9	牛(乳)		2.9	全身の黄変、肝炎

表5 モニタリング検査(簡易法)結果

獣種	通常畜(モニタリング)		病畜等		計	
	検査頭数	陽性数	検査頭数	陽性数	検査頭数	陽性数
牛	58	0	489	1	547	1
とく	0	0	0	0	0	0
馬	14	0	0	0	14	0
豚	33	0	0	0	33	0
鶏	24	0	0	0	24	0
計	129	0	489	1	618	1

表6 抗菌性物質検査項目別検査頭数

物質名	検査項目					合計 (延べ頭数)
	簡易法	分別推定法	合抗菌成剤	T C系	内寄生虫薬	
牛	541	1	26	0	0	568
とく	0	0	0	0	0	0
馬	14	0	7	0	0	21
豚	33	0	21	0	0	54
鶏	24	0	12	0	0	36
合計	612	1	66	0	0	679

### (3) 病理検査

#### ア 病理検査件数

平成 23 年度に病理組織検査を実施した獣畜は 157 頭羽、検体数は 465 検体であった【表 7】。

#### イ 診断した疾病

大きく分類すると腫瘍 9.6%、炎症 83.4%、変性 3.2%、寄生虫感染 2.5%、奇形 0.6%、著変なし 2.5%であった。獣種別詳細は以下のとおりであった。

##### 牛・炎症

牛複合呼吸器病 (2)、非定型抗酸菌症 (2)、化膿性脾炎 (1)、慢性間質性腎炎 (1)

##### ・変性

黒色症 (2)、リポフスチン沈着腎 (1)

##### ・腫瘍

牛白血病 (11)、顆粒膜細胞腫 (1)

##### 豚・炎症

非定型抗酸菌症 (67)、豚赤痢 (46)、豚回虫症 (4)、胆管周囲炎 (1)、

リンパ濾胞 (1)、炎症性偽腫瘍 (1)、間質性肺炎 (1)

##### ・腫瘍

豚白血病 (1)

##### ・著変なし (3)

##### 馬・炎症

リンパ球・形質細胞性腸炎 (1)、化膿性肺炎 (2)、好酸球性肺炎 (1)

##### ・変性

脂肪変性 (1)

##### 鶏・腫瘍

リンパ腫 (1)、低分化型腺癌 (1)

##### 綿羊・変性

黒色症 (1)

##### 鹿・奇形

胆管過形成 (1)

表7

獣種	検査頭羽数	検体数
牛	23	64
豚	125	392
馬	5	5
鶏	2	2
綿羊	1	1
鹿	1	1

#### (4) 業務管理基準（GLP）の対応、整備について

食品衛生検査施設におけるGLP導入については、食品衛生法施行令の一部改正により、平成9年4月1日から義務づけられ、当所でも平成10年4月からスタートした。

##### ア 導入経過

本県でも、平成9年度中に県内の食品衛生検査施設（当検査所、保健所検査課6施設（現在3施設）及び保健環境研究所）より検討委員を選出して、①試験品取扱標準作業書、②試薬管理標準作業書について、県下の検査施設での統一した作業書とラベルを作成した。併せて、試験品採取記録簿、試験品管理記録簿及び検査管理簿兼結果表の3部複写様式の作成と、検査結果通知書の原則統一様式の作成を行った。

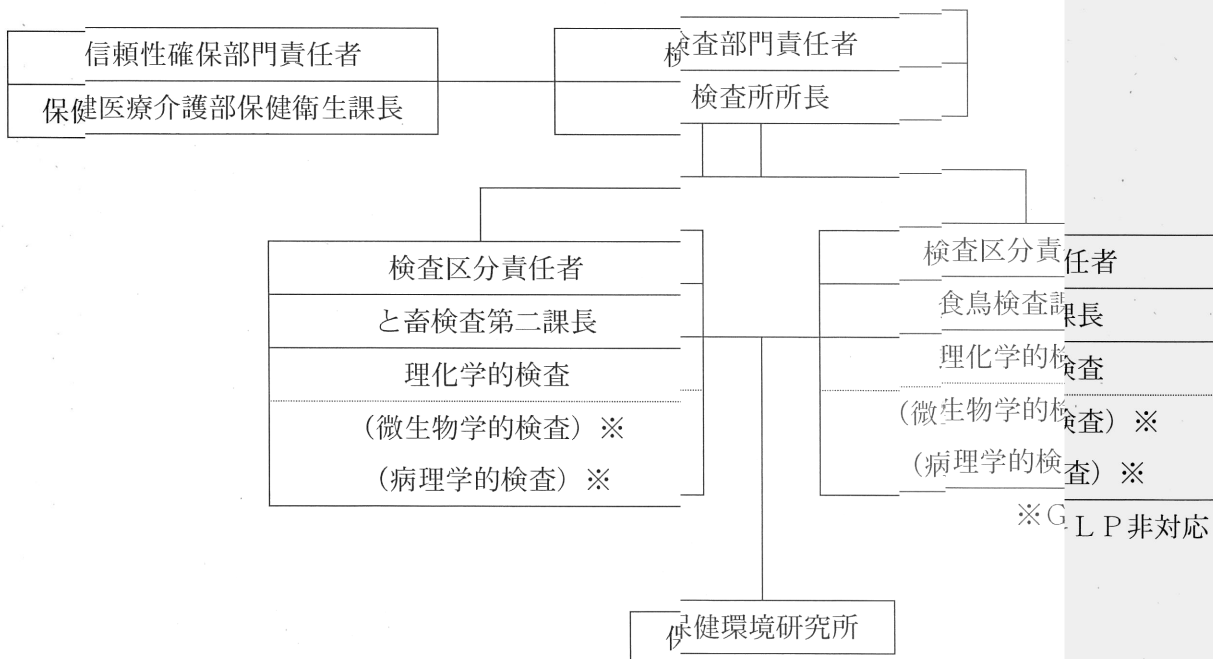
その他の③機械器具保守管理標準作業書④検査実施標準作業書については、当所独自に作成した。

平成11年4月、福岡県食品衛生検査施設等の業務管理に関する連絡協議会が設置され、GLP委員連絡協議会、GLP実務者連絡協議会が開催された。平成23年度は、GLP実務者連絡協議会が3回開催された。

##### イ 業務管理体制（組織の構成）

当所の業務管理体制は、下記の図のとおりである。特色としては、と畜検査課と食鳥検査課で勤務時間が異なる変則勤務のため、と畜検査課と食鳥検査課にそれぞれ検査区分責任者を置いている。

また、当所において定量試験を行うことが困難な検査項目については、保健環境研究所に検査依頼を行っている。



#### ウ 対象検査項目及び獣畜鶏

当所でのG L Pの対象検査項目としては、食品衛生法の規格基準が設定されているもの（抗生物質、抗菌性物質及び駆虫薬）で、病畜、通常畜及び畜水産食品のモニタリング調査（厚生労働省）の対象獣畜及び鶏について実施した。

#### エ 内部精度管理

ペニシリン系抗生物質、スルファジミジンについて各1回実施した。また、食品中に残留する農薬等に関する試験法の妥当性評価ガイドラインの一部改正により、当所で実施している残留医薬品検査についても、実施することになったため、抗生物質（オキサリサイクリン、テトラサイクリンおよびミノサイクリン）および内寄生虫剤（フルベンダゾール）について、妥当性評価試験を実施した。

#### オ 外部精度管理

（財）食品薬品安全センター主催の全国統一の外部精度管理に、平成10年度から毎年参加している。

平成23年度の参加項目および対象物質は、①細菌数測定；一般細菌数、②残留動物用医薬品；スルファジミジン、③細菌同定；大腸菌群・大腸菌・黄色ブドウ球菌・サルモネラ属菌であり、結果はいずれの項目も良好であるとの報告を受けた。

#### カ 内部点検

信頼性確保部門責任者による内部点検が、1回行われた。  
文書による指摘事項は無かった。

## (5) 動物に起因する感染症の病因物質保有状況等調査事業

現在、社会問題化している人の感染症の多くは動物が感染源となる感染症である。本事業は、これらの動物に由来する感染症から県民自らが健康を守ることができるよう、動物由来感染症に関する正しい知識の普及啓発の一環として、人への感染性がある病因物質の保有状況等を調査し感染予防のための情報の基礎とすることを目的としている。

当検査所は本事業の検査機関として、23年度の10月から11月にかけて、福岡県下で捕獲された猪19頭の胆汁及び肝臓、鹿11頭の肝臓のE型肝炎ウイルスの感染状況について調査を実施した。

結果は次のとおりである。

		陽性頭数／検査頭数
猪	胆汁及び肝臓	1頭／19頭
鹿	肝臓	0頭／11頭



## 4 衛生指導

### (1) 細菌検査

#### 〈と畜関係〉

当検査所では、「平成23年度と畜場における枝肉の微生物汚染実態調査等について」（平成23年7月7日付食安監発0707第2号厚生労働省医薬食品局食品安全部監視安全課長通知）に基づく検査の他、衛生検査を行っている。

検査対象及び検査項目は次のとおりである。

#### ア と畜場における枝肉の微生物汚染実態調査

一般細菌数及び大腸菌群数（牛・拭き取り）	74検体
一般細菌数及び大腸菌群数（豚・拭き取り）	64検体
GFAP残留量調査（牛枝肉拭き取り）	148検体

#### イ 衛生検査

腸管出血性大腸菌検査（牛枝肉・肝臓拭き取り）	24検体
糞便系大腸菌群及びサルモネラ属菌（馬枝肉・肝臓ふき取り）	20検体

〈食鳥関係〉

ア 検査期間

平成23年6月から平成24年2月までの8ヶ月間

イ 検査項目

- (ア) 生菌数
- (イ) 大腸菌群数
- (ウ) 食中毒細菌：カンピロバクター属菌

ウ 検査方法

「食品衛生検査指針」及び「食鳥処理場における HACCP 方式による衛生管理指針」に準じる。

エ 検体数及び検査実施項目

表1のとおり。とたいや製品及び施設・器具等のふき取りの他、処理場ごとに衛生管理上重要なポイントと考えられる箇所の検査を行った。

〈表1〉 検体数及び検査実施項目

	処理場	とたい 拭き取り	施設・器具等 拭き取り	製品	その他	検査実施項目
6月	大規模A	0	0	8	0	一般生菌数、大腸菌群、カンピロバクター、サルモネラ、黄色ブドウ球菌
8月	認定処理場	39	0	0	0	一般生菌数、大腸菌群、カンピロバクター
9月	認定処理場	6	0	0	0	一般生菌数、大腸菌群、カンピロバクター
10月	認定処理場	3	0	0	0	一般生菌数、大腸菌群、カンピロバクター
10月	大規模B	12	6	0	0	一般生菌数、大腸菌群、カンピロバクター
2月	大規模A	12	0	0	0	一般生菌数、大腸菌群
2月	大規模B	12	0	6	0	一般生菌数、大腸菌群
合計		84	6	14	0	104

\* とたい拭き取り：脱羽後、内臓摘出後、内外洗浄後、チラー冷却後等

\* 器具等拭き取り：ベルトコンベア、まな板等

\* 製品：カット後もも肉、カット後胸肉

## オ 検査結果

### 大規模処理場

#### (ア) チラー後とたい及び製品（もも、むね）検査について〈表2〉〈表3〉

本所ではとたい（チラー後）及び製品の拭き取り材料について生菌数目標基準を 10,000/g (10,000/cm<sup>2</sup>) 以下に設定している。とたい及び製品については、この基準を超えたものは認められなかった。

食中毒細菌については、とたい及び製品全てからカンピロバクター属菌が検出され、製品からは黄色ブドウ球菌が8検体中2検体検出された。サルモネラ属菌は検出されなかった。

#### (イ) とたい及び器具等の拭き取り検査結果について〈表4〉

器具等の生菌数が目標基準を超えていたが、カンピロバクター属菌は検出されなかった。

〈表2〉 チラー後とたい検査結果

	生菌数	カンピロバクター属菌
	10,000/cm <sup>2</sup> 以上	陽性検体数
計	0/18 (0%)	3/3 (100%)

〈表3〉 製品検査結果

	生菌数	カンピロバクター属菌	サルモネラ属菌	黄色ブドウ球菌
	10,000/cm <sup>2</sup> 以上	陽性検体数	陽性検体数	陽性検体数
もも	0/7	4/4	0/4	1/4
むね	0/7	4/4	0/4	1/4
計	0/14 (0%)	8/8 (100%)	0/8 (0%)	2/8 (25%)

〈表4〉 とたい及び器具等の拭き取り検査結果

生菌数	カンピロバクター属菌
10,000/cm <sup>2</sup> 以上	陽性検体数
3/15 (20%)	0/6 (0%)

### 認定小規模処理場

脱羽後のとたいの外側表面（背部＋胸部＋一方の大腿部）の拭き取り検査では、カンピロバクター属菌が、16検体中10検体と高率に検出された。

〈表5〉 とたい検査結果

	生菌数	カンピロバクター属菌
	10,000/cm <sup>2</sup> 以上	陽性検体数
計	10/48 (21%)	10/16 (63%)

(2) 衛生旬間

と畜場及び食鳥処理場の清潔保持並びに、食肉等の衛生的な取扱いの強化及び関係者の衛生思想の普及向上により、清潔で衛生的な食肉等の生産を図る目的で、毎年6月から7月に衛生旬間を定め衛生標準作業手順書に基づく衛生指導及び講習会を開催している。

〈と畜関係〉

と畜場名	講習会開催月日	受講者数	衛生指導内容
県南食肉センター	5月30日	27名	①衛生標準作業手順書に基づく作業点検表を用いた作業手順の遵守確認 ②上記手順書に基づく記録等の点検 ③衛生講習会の実施
九州協同食肉(株)	6月27日	52名	
うきは市と畜場	6月23日	14名	

〈食鳥関係〉

大規模食鳥処理場名	開催月日	受講者数	講習内容
(株)あらい	7月7日	47名	①衛生管理について ②処理場の整備書類等の点検を併せて実施
(株)ヤマショウフーズ	7月8日	64名	

認定小規模食鳥処理場については、県下2ヶ所で講習会を開催した。

講習場所	開催月日	受講者数	講習内容
宗像遠賀保健福祉環境事務所	7月5日	12名	①衛生管理について
福岡県食肉衛生検査所	7月6日	4名	

(3) と畜場、大規模食鳥処理場に併設する食肉処理施設等の監視指導

本所は、福岡県食品衛生監視指導計画に基づき、と畜検査及び食鳥検査業務に併せてこれらの施設の監視指導を行っている。

業種・種類	施設数	計画監視件数	監視件数	監視率(%)
① と畜場に併設する食肉処理施設のうち生食用食肉取扱い施設 ② 大規模食鳥処理場に併設する食肉処理施設	1	1,000	948	94.8
① 認定小規模食鳥処理場に併設する食肉処理施設 ② 対外国食肉輸出施設として認定された食肉処理施設 ③ 野生獣肉を取り扱う食肉処理施設	2 <sup>1</sup>	252	204	81
と畜場に併設する食肉処理業(上記以外)	2	4	55	1375

## 第 3 章 調査研究

# 1 学会及び誌上発表一覧

年度	演 題 名	演 者 ・ 学 会 名
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブロイラーにおける主な全部廃棄疾病の季節的变化の一考察</li> <li>・食鳥処理場における細菌汚染状況について</li> <li>・食肉中の残留抗菌性物質の実態調査について</li> <li>・牛の肝臓の増殖性好酸球性小葉間静脈炎について</li> <li>・鶏の尿酸塩沈着症</li> <li>・増殖性好酸球性小葉間静脈炎</li> <li>・FIDガスクロマトグラフィーによる防ばい剤イマザリル・TBZ分析法</li> </ul>	久野 友幸 ・日本獣医公衆衛生学会(九州) 臂 博美 ・九州地区食検協研修会 中村 和久 ・九州地区食検協研修会 宮之脇健二 ・九州地区食検協研修会 小川 卓司 ・全国食検協病理部会 長濱 邦昭 ・全国食検協病理部会 佐藤 清 ・食肉、食鳥肉衛生技術研修会 佐藤 清 ・日本獣医公衆衛生学会(九州)
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豚丹毒菌の鋳型DNAの抽出及び増幅DNAの解析</li> <li>・ミセルクロマトグラフィーによる血清中の抗菌性物質の迅速検査法</li> </ul>	高田 則子 ・全国食検協理化学部会 中村 和久 ・九州地区食検協研修会 宮崎 祐之 ・日本獣医公衆衛生学会(九州) 池野 清太郎 ・全国食検協理化学部会 池野 清太郎 ・食肉、食鳥肉衛生技術研修会
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミセルクロマトグラフィーによる血清中アンピシリンの迅速定量</li> <li>・フォトダイオードアレイ検出器付高速液体クロマトグラフィーを用いた畜水産物中の合成抗菌剤の一斉分析法</li> <li>・畜水産食品中の残留合成抗菌剤の一斉分析法(改訂法)での高速液体クロマトグラフィー(HPLC)分析における検体由来妨害ピークの発生要因の検討</li> <li>・多波長検出器を用いた高速液体クロマトグラフィー(アイソクラティック溶出)による厚生省モニタリング13合成抗菌剤の一斉分析法(改訂法)の検討</li> </ul>	宮崎 祐之 ・日本獣医師会雑誌第48巻第10号 平成7年10月号 佐藤 清 ・福岡県獣医師会会報 宮崎 祐之 ・福岡県獣医師会会報 松尾 樹治 ・九州地区食検協研修会 松尾 樹治 ・食肉、食鳥肉衛生技術研修会
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模食鳥処理場における「朝引き鳥」の微生物制御について</li> <li>・日常検査におけるニューキノロン系の同時分析</li> <li>・病変部由来豚丹毒菌の疫学的解析</li> <li>・一斉分析法におけるニューキノロン剤の同時分析</li> </ul>	坂井 義博 ・日本獣医公衆衛生学会(九州) 野中 寿子 ・全国食検協理化学部会 高田 則子 ・全国食検協微生物部会 高田 則子 ・食肉衛生技術研修会 安在 敏 ・九州地区食検協研修会 安在 敏 ・食肉衛生技術研修会
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・と畜場で分離された大腸菌O157の解析</li> </ul>	高山 優子 ・日本獣医公衆衛生学会(全国)
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認定小規模食鳥処理場の指導について</li> <li>・食鳥処理場における食中毒細菌汚染状況調査とその改善策</li> <li>・食鳥処理場における食鳥肉等のサルモネラ汚染状況</li> <li>・福岡県食肉衛生検査所における過去5年間の食鳥検査状況</li> </ul>	迎田 恵之 ・九州地区食検協研修会 迎田 恵之 ・食鳥肉衛生技術研修会 井手 修 ・全国食検協微生物部会 井手 修 ・食鳥肉衛生技術研修会 前田 宏昭 ・日本獣医公衆衛生学会(九州) 前田 宏昭 ・日本獣医公衆衛生学会(全国) 浜崎 伸一 ・福岡県公衆衛生学会

年度	演題名	演者・学会名
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>福岡県における大規模食鳥処理場のカンピロバクターおよびサルモネラ汚染の実態調査</li> <li>食鳥処理場におけるカンピロバクターの検出率とRAPD-PCR法による解析</li> <li>と畜場で分離された大腸菌O157の解析</li> </ul>	安増 邦理 ・福岡県公衆衛生学会 安増 邦理 ・全国食検協微生物部会 高山 優子 ・福岡県公衆衛生学会 ・全国公衆衛生学会
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>生き残りをかけたAと畜場への衛生指導</li> <li>パルスフィールドゲル電気泳動法による食鳥処理場由来サルモネラの疫学解析</li> <li>PCRによるCampylobacter jejuniの迅速検査法</li> <li>カンピロバクターの馬尿酸塩加水分解試験についての考察</li> </ul>	竹内 峰男 ・九州衛生技術研修会 ・食肉獣医公衆衛生学会(九州) 前田 宏昭 ・日本 安増 邦理 ・九州地区食検協研修会 ・食鳥肉衛生技術研修会 永田 朋子 ・九州地区食検協研修会 ・食鳥肉衛生技術研修会
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>経過措置期間中の牛解体作業における衛生指導について</li> <li>食鳥処理場における衛生対策の検証</li> <li>鶏におけるVRE保菌調査</li> <li>豚におけるVRE保菌調査と枝肉の汚染調査</li> </ul>	梅崎みどり ・九州地区食検協研修会 井手 修 ・九州食鳥肉衛生技術研修会 實政 智恵 ・食肉地区食検協研修会 真鍋 修一 ・九州食鳥肉衛生技術研修会 ・食肉獣医公衆衛生学会(九州) 上田 敦士 ・日本公衆衛生学会 ・福岡公衆衛生学会 ・全国地区食検協研修会
13	<ul style="list-style-type: none"> <li>中抜き方法が異なる食鳥処理場における食鳥肉等の微生物汚染について</li> <li>と畜場における衛生意識向上のとりくみ</li> <li>牛におけるCampylobacter属菌の検出</li> <li>牛胆汁におけるカンピロバクター属菌の保菌状況</li> </ul>	井手 修 ・九州食鳥肉衛生技術研修会 野見山 亨 ・食鳥県公衆衛生学会 梅崎 由佳 ・福岡地区食検協研修会 安増 邦理 ・九州公衆衛生学会 松木 三郎 ・福岡地区食検協研修会
14	<ul style="list-style-type: none"> <li>認定小規模食鳥処理業者の衛生教育について</li> <li>ブロイラーにおけるカンピロバクター属菌の農場別保菌状況および薬剤感受性について</li> <li>認定小規模食鳥処理施設における衛生検査と改善指導について</li> <li>イヌ、ネコ、ウシ、ブタにおけるクリプトスポリジウムの検出結果</li> </ul>	戸越 幸子 ・九州肉衛生技術研修会 荒牧 明世 ・食鳥地区食検協研修会 松木 三郎 ・九州 長濱 邦昭 ・日本獣医公衆衛生学会(九州) 藤田 幸辰 ・日本獣医公衆衛生学会(九州) ・福岡公衆衛生学会
15	<ul style="list-style-type: none"> <li>牛海綿状脳症(BSE)検査の取り組み</li> <li>福岡県における動物由来感染症予防体制整備事業について</li> <li>牛、豚およびブロイラーにおけるカンピロバクター属菌の保菌状況および食肉汚染について</li> <li>残留抗菌性物質独自モニタリング検査法の検討</li> </ul>	石田 剛 ・福岡獣医公衆衛生学会(九州) 荒牧 明世 ・日本県獣医師会会報 ・福岡獣医公衆衛生学会(九州) 松木 三郎 ・日本 松木 三郎 ・九州地区食検協研修会

年度	演 題 名	演 者 ・ 学 会 名
16	<ul style="list-style-type: none"> <li>・残留抗菌性物質独自モニタリング検査法の検討</li> <li>・食肉処理施設と連携した衛生指導について</li> <li>・認定小規模食鳥処理場の拭き取り検査結果に基づく衛生指導について</li> </ul>	荒牧 明世 ・全国食検協理化学部会 貝沼 陽子 ・九州地区食検協研修会 永田 祥代 ・九州地区食検協研修会
17	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイガモの食中毒細菌保有状況等に関する基礎調査について</li> <li>・<i>B.megaterium</i>を用いた残留抗菌性物質スクリーニング検査法の検討</li> </ul>	野田 篤司 ・福岡県公衆衛生学会 ・全国公衆衛生獣医師協議会 ・九州地区食検協研修会 ・食鳥肉衛生技術研修会 荒牧 明世 ・日本獣医公衆衛生学会(九州) 南 奈津子 ・九州地区食検協研修会 ・食肉衛生技術研修会
18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブロイラーの内臓におけるカンピロバクターの分布について</li> <li>・福岡県の牛における<i>Coxiella burnetii</i>に対する抗体保有状況調査</li> </ul>	徳田 裕子 ・九州地区食検協研修会 ・食鳥肉衛生技術研修会 大古場正史 ・九州地区食検協研修会
19	<ul style="list-style-type: none"> <li>・と畜場で斃死し炭疽を疑った牛から悪性水腫菌が分離された症例について</li> <li>・と畜検査成績のフィードバックについて</li> </ul>	大古場正史 ・九州地区食検協研修会 野田 篤司 ・九州地区食検協研修会
20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認定小規模食鳥処理場での作業工程の改善事例について</li> <li>・耳介腫大を呈した豚の2症例</li> <li>・と畜検査成績データベースシステム構築と疾病発生動向の共有について</li> <li>・食肉処理場に出荷された福岡県産豚のE型肝炎ウイルス浸潤状況</li> </ul>	大池 史俊 ・九州地区食検協研修会 ・食鳥肉衛生技術研修会 葉玉 桐子 ・九州地区食検協研修会 谷崎 剛 ・日本獣医公衆衛生学会(九州) 横山 敦史 ・日本獣医公衆衛生学会(九州) 山崎 知絵 ・食品衛生監視員協議会(九州)
21	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認定小規模食鳥処理場における自主衛生管理向上への取り組み</li> <li>・枝肉微生物モニタリングの統計的評価からと畜場に対する指導まで</li> <li>・衛生指標菌数モニタリングデータの統計的評価の一例</li> </ul>	浜崎 伸一 ・食品衛生監視員協議会(九州) ・九州地区食検協研修会 ・食鳥肉衛生技術研修会 谷崎 剛 ・日本獣医公衆衛生学会(九州) 清水 良平 ・九州地区食検協研修会
22	<ul style="list-style-type: none"> <li>・馬の内寄生虫用剤の使用状況及び筋肉中への残留状況調査</li> </ul>	谷崎 剛 ・日本獣医公衆衛生学会(九州)



福岡県行政資料	
分類記号 GF	所属コード 4404707
登録年度 24	登録番号 1